

**科学技術連携施策群の成果及び今後の課題
—平成19年度までに補完的課題が全て終了した
科学技術連携施策群のフォローアップの結果—について**

概要(案)

- 生命科学の基礎・基盤
- 水素利用／燃料電池
- 地域科学技術クラスター

**平成20年6月17日
基本政策推進専門調査会**

科学技術連携施策群「生命科学の基礎・基盤」フォローアップ概要

目標：世界最高水準の研究開発環境を提供するライフサイエンスデータベースの構築に向けた活動を中心として、ライフサイエンス研究における国際的優位性を確保する。

府省間等の連携活動や補完的課題（3年間）の実施により、特に進展のあった事項、成果

〔バイオリソースバンクの情報共有〕

各省のバイオリソースバンクの情報共有の重要性を指摘した。指摘に対し、例えば文部科学省「ナショナルバイオリソースプロジェクト」のホームページからは、“日本の遺伝資源情報サイト”にリンクが張られ、他省の遺伝資源ウェブサイトのリストが閲覧可能となった。

〔データベースの統合化〕

ライフサイエンス分野のデータベースの統合化に関しては、平成18年度に文部科学省「統合データベースプロジェクト」、農林水産省「農林水産生物ゲノム情報統合データベースの構築」が開始され、平成20年度には、経済産業省「統合データベースプロジェクト」が立ち上がることとなった。

[ポータルサイトの作成]

分かり易いポータルサイト（入り口となるウェブサイト）の作成を指示し、それを受けて、文部科学省「統合データベースプロジェクト」は、複数の分類方法でデータベースを分かり易く分類したポータルサイトを作成した。

[統合化データベースの構築方法の開発]

臨床データの統合化データベースの構築の促進を指摘し、それに対し、例えば、文部科学省「統合データベースプロジェクト」は、医科学分野のデータベースを統合するためのデータベース構築方法の開発に着手した。

目標の進捗状況：

関係府省のデータベースの統合化に向け、技術的課題とその解決策の提示、フィージビリティ・スタディによる検証結果の提示を行うことができ、世界最高水準の研究開発環境整備に向けて当初の目標を概ね達成することができたが、各省のデータベースの整備の進捗状況に合わせて個別の問題を解決しつつ、統合化に向けた継続的な取組が必要である。

今後の課題：

本連携施策群の取組により、文部科学省、農林水産省、経済産業省による統合データベース事業が開始された。しかし、この取組は端緒についたばかりであり、今後、補完的課題の成果を反映させ関係府省の役割分担を明確にしつつ連携強化を図りながら、早急にデータベースの統合化に向けた具体的な制度設計やロードマップの作成を行い、統合的なデータベースの構築を達成する必要がある。

科学技術連携施策群「水素利用／燃料電池」フォローアップ概要

目標：関係機関の連携を図り、各種課題解決のための取組を進めることによって、水素利用や燃料電池技術の研究を推進し、第3期科学技術基本計画の個別政策目標である「燃料電池を世界に先駆け家庭や街に普及する」ことを目指す。

府省間等の連携活動や補完的課題（3年間）の実施により、特に進展のあった事項、成果

①府省間等の連携活動（会合、活動等）

- ・ タスクフォース会合等の開催（計21回）：府省等連絡調整、情報交換、活動方針検討等
- ・ コーディネーターによる視察、ヒアリング、助言等の推進活動
- ・ 成果報告会、シンポジウムの開催（計2回）



連携施策群
「水素利用／燃料電池」
シンポジウム
(H19.11.14)

①府省間等の連携活動（課題提示）

- ・ 例：将来的な大量市場導入に不可欠と考えられる課題の明確化
 - 基礎・基盤的な研究強化のためのエネルギー分野、ナノ・材料分野の一層の連携強化の重要性
 - 大学、独法を中心とする競争的・持続的環境下での革新的研究開発の促進
- ・ 両分野PTにおける今後の課題の整理等の取組

②補完的課題による成果概要

○ 地域等における水素利用システムに関する概念検討：

- ・ 地域水素エネルギー利用形態評価可能なソフトウェア開発
- ・ 集合住宅、業務用建物への導入時の効果解明
- ・ 当該エネルギー利用システムの環境性、経済性評価と技術課題抽出

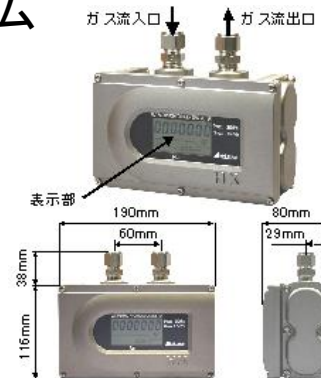


集合住宅の
エネルギー需要設定、
シミュレーション画面

②補完的課題による成果概要

○ 需要家用水素計量システムに関する研究開発：

- ・ 需要家用水素ガス計量システムとしての超音波流量計の試作品開発
- ・ 初期設計目標を満足、耐久性も期待できるレベルに到達
- ・ 漏洩対策等の知見獲得



水素流量計
第2次プロトタイプ
試作品

目標の進捗状況：個別政策目標である「燃料電池を世界に先駆け家庭や街に普及する」については、まだ燃料電池が家庭や街に広く普及されるまでには至っていないものの、関係府省の取組により、初期導入の取組において成果が得られている。また、補完的課題の実施、将来的な大量導入に資する基礎・基盤的な知見の収集等も行われたことにより、一定の成果は得られたものと考えられる。

今後の課題：

- 水素利用／燃料電池技術の早期市場導入、将来の大規模普及を目指した取り組みに資する関係府省連携体制の維持・強化
- 水素利用／燃料電池技術の低コスト化・高性能化を目指した、大学、独法を中心とする競争的・持続的環境下での革新的研究開発の促進
- ナノテクノロジー・材料分野とエネルギー分野の研究開発の連携強化による知識の積極的移入 等

科学技術連携施策群「地域科学技術クラスター連携施策群」フォローアップ概要

目標：①地域の企業等の地域科学技術施策の利用者の利便性の向上、②技術シーズから事業化に至るシームレスな支援体制の構築、③地域クラスター施策の成果分析に基づく効果的施策の検討、④地域クラスターの形成を阻害する規制の改善等、⑤各地域の事情に即した連携の促進により、地域における革新技術・新産業創出を通じた地域経済の活性化を図る。

府省間等の連携活動や補完的課題（3年間）の実施により、特に進展のあった事項、成果

【シンポジウムの開催】

①地域クラスターフォーラム（計2回）

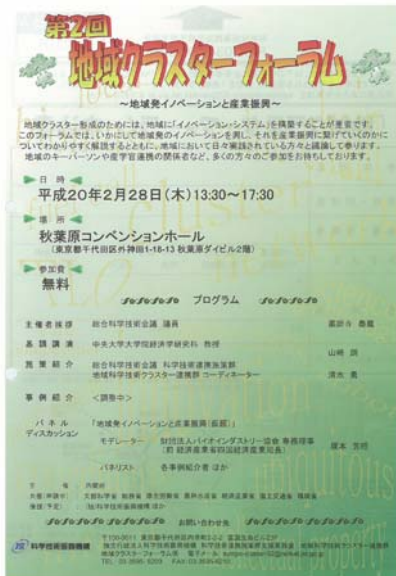
- ・地域のイニシアティブの下で地域クラスターの形成を推進するため、各府省及び地域の取組意識を醸成

- ・今後の課題、政府への期待・要望点を整理

②クラスタージャパン共催（H19年度開催）

- ・クラスター活動の成功事例報告、パネルディスカッションを実施し、クラスター形成方策について議論

- ・全国から約500名が参加



地域クラスターフォーラムパンフレット

【地域ブロック協議会の開催】

全国10ブロックで年1~2回程度開催するとともに、以下の取組みを実施

- ・地域科学技術振興施策に係る合同成果発表会の開催

(計31回)

- ・その他、地域技術関連イベントの共催、共同展示会の実施

(計46回)

- ・補助金等公募説明会の開催

(計68回)

- ・各機関担当者に対する研修会の実施

(計4回)

など



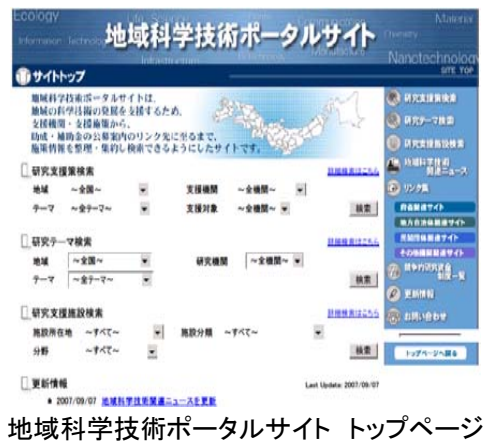
産業クラスター・知的クラスター等の合同発表会(H18.2.15) 北陸ブロック地域科学技術振興協議会の出展ブース風景



H17近畿地域ブロック協議会風景(H18.2.23)

【地域科学技術ポータルサイト】

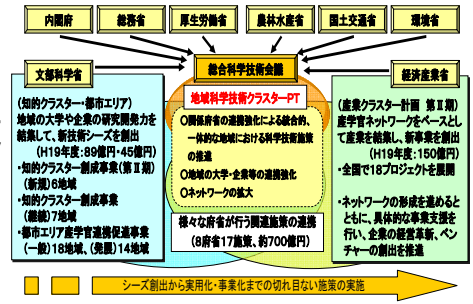
- ・国や自治体が実施する地域科学技術施策の情報をワンストップで取得できるポータルサイトを開設
- ・検索可能な研究支援策数、研究支援施設数は約1,200件
- ・平成19年度の月平均アクセス件数は約4千件



地域科学技術ポータルサイト トップページ

【技術シーズから事業化に至るシームレスな支援体制】

- ① 施策連携の枠組みの構築(8府省17施策)
 - ② 各制度における他府省連携枠の創設
- ・知的クラスター創成事業(文部科学省)
 - ・地域新生コンソーシアム研究開発事業(経済産業省)
 - ・先端技術を活用した農林水産研究高度化事業(農林水産省)



施策連携の枠組み

目標の進捗状況：

- ・地域科学技術ポータルサイトの整備や地域ブロック協議会による活動等により、地域の企業等の地域科学技術施策の利用者にとっての利便性の向上が図られた。
- ・施策連携の枠組み構築や既存の施策における他府省連携枠の創設等により、技術シーズから事業化にいたるシームレスな支援体制の進展が図られた。

今後の課題：

平成18年度より、地域ブロック協議会ごとにアクションプランを定めて活動を展開しているが、今後も、適宜プランの見直し等を実施しながら、引き続き取組みを継続する。さらに、平成19年12月に基本政策推進専門調査会の下に設置された地域科学技術施策WGでの議論を踏まえ、平成20年5月にとりまとめられ、総合科学技術会議決定、関係大臣への意見具申を行った「科学技術による地域活性化戦略」の実施により、当初の5つの目標に向け、取組を一層推進する。